

生き生き楽農会を支えた名指南役逝く ありがとう佐藤美保子さん、忘れない

どんぐりs理事長・堀内 泰

2月16日、生き生き楽農会の設立時からの野菜作り指導者の佐藤美保子さんが亡くなられた。約3年近くの闘病生活中、昨年末までは、本人の畑にいくと「玉野の自然と野菜に力をもらい元気なのよ」が口癖であった。ところが1月中旬すぎから急に容態が悪化し召されてしまった。

逝去後に別れの挨拶状が届いた。「早朝に逆光に輝く幾万の稲の葉先のつゆを思いつつ-----。さようなら。いっぱい、いっぱいありがとう」。おそらく病床で書かれたのだろう。美保子さんらしい言葉がちりばめられていた。

2010年の楽農会立ち上げ時に、野菜づくりの基本を教える人を探す中で、知人に紹介されて面談したのが最初だった。玉野での就農は、友人からいただいた新鮮なサラダ菜に感動し自分も作ることにしたとのこと。それ以来20年、1反は野菜づくり、もう1反は米作に励んできた。農薬は使わず、自然にやさしい有機農法で野菜の種蒔き、苗づくり、育て方、施肥のやり方の詳しさに驚き、この方なら適任だと即決した。特に土づくりが大事で「ミミズを増やさなければよい野菜は採れないので、自分の畑はミミズ畑よ」と言われたのが印象深い。

それ以降15年間、誰にもいつも笑顔で丁寧に教えていただき、いくら感謝してもしきれない方であった。初心者には、まず、美保子さんの畑に伺い、楽しい野菜づくりのお話をお聞きするのが習わしであった。ベテランでも野菜づ



ミミズ畑で講習する佐藤さん（左から3人目）

くりで困った際には、こまめに教えてくれ、すぐに解決した。

玉野の自然をこよなく愛し、ミミズ畑に遊びに来る野鳥や小動物と遊び、見慣れない野菜や花等を慈しむ自然児であった。楽農会の精神的な支柱であり、彼女がいると何故か安心できた。今はミミズ畑を見渡しても主がおらず、とても寂しげだ。辛い別れだが、遺志を継ぎ、野菜作りを続け美しい玉野を守っていききたい

玉野の母のような存在

生き生き楽農会会長・石川 彰子

私が美保子さんと初めて出会ったのは、楽農会に入った8年前でした。嬉しい時は共に喜び、辛い時は温かく寄り添って下さる玉野の母のような存在でした。毎日畑の野菜に優しい眼差しを向ける姿、最近では玉野に上る朝陽に手を合わせられる姿が印象的です。

もう会えないと思うと寂しく辛いですが、玉野の畑に来れば不思議と美保子さんを近くに感じることが出来ます。これからは感謝の思いと共に、美保子さんが大切にした「野菜作りを通して玉野の自然環境を守る想い」を楽農会の皆と引き継いでいきます。美保子さん、ありがとう。

第18回高蔵寺どんぐりs 定期総会

日時 5月25日(日)

13時30分~16時

会場 グルッポふじとう

3階大会議室

高森台小学校5年生 高森山で落ち葉かき体験

高森山で2月12日、麓の高森台小学校の5年生35名と引率の先生2名、どんぐりs会員6名で授業として落ち葉かきと自然観察をしました。最初は昨年南側花壇に移植したフジバカマの説明。花が咲き、旅する蝶アサギマダラが立ち寄りてくれることを願っています。

次に樹木園での木の説明。特にエノキの周辺の落ち葉ではゴマダラチョウなどの幼虫が越冬しているので落ち葉はそのままに。その後通路の落ち葉かきをしたのですが、その量に皆驚いていました。落ち葉の中から越冬中のクビキリ

ギスの成虫が出てきました。割れた枯れ枝の中から何匹ものクワガタの幼虫も出てきて大騒ぎ。冬枯れの中でも生き物たちは命をつないでいました。

最後は坂を上って山頂での落ち葉かき。夏場に凹んでいたビートルベッドに落ち葉をてんこ盛りに。今はこの中でカブトムシの幼虫が育っているため踏み込み作業は避けました。あっと言う間の1時間45分。今回の授業は高森山の自然を守るために児童達の発案で実現したものです。来年度も定例行事となっていくことを願っています。
(山口 正恵)

高森山の木でストラップ作り

市内の市民団体の活動を紹介するパネル展が2月10日から24日までサンマルシェで開かれた。「どんぐりs」をはじめ市民活動支援センターに登録する40団体が参加。土日は各団体が工夫したワークショップを開催。当会は11日に高森山の木を輪切りした台木にしたストラップづくりを行った。

当会理事の加藤善夫さんが指導し、幼稚園児から大人まで夢中になって台木にマジックや色鉛筆で個性豊かなデザインを描いた。親子連れなど80人が立ち寄り、午後3時には用意した60個の台木が無くなる盛況だった。

すまい困りごと無料相談

- 電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956 (長谷川)
面接相談会日・会場
4月13日(日) グルッポふじとう
5月11日(日) グルッポふじとう
(いずれも13:30~15:30)
・当会会員の一級建築士が相談に応じます。

ハート・ほっと・ルーム

- 開催日・会場
3月23日(日) 養楽福祉会たかもり
4月27日(日) 養楽福祉会たかもり
＝春日井市高森台5-6-6
(いずれも13:30~17:00)
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393 (浪川)
・暮らしや心の悩みを語り合しましょう。

3月29日、高森山で ツツジを見よう会

私の朝・昼・晩

「高貴なる囚人」

女帝を認めるか、皇位継承は男系でなければだめなのか。週刊誌などで天皇制を巡る議論がかまびすしいが、肝心の論点が抜け落ちているように思う。皇族の人権である。たとえば、唯一人の次世代皇位継承者である悠仁さんには、職業選択の権利は無論、言論の自由や住居選択権もない。結婚相手も皇室会議の承認が必要だ。一方で「国政に関する権能」は憲法で一切否定されている。選挙権さえない。ただ、「国民統合の象徴」として、清く正しく、公正に生きなければならない。一挙手一投足まで監視され、時に非難を浴びる。

自分の生き方の主導権を全て奪われている。これでは「高貴なる囚人」だ。どうあるべきなのか。悠仁さんに、自分自身にとって望ましい人生の選択権を持たせればいい。もし、皇位継承権を放棄したければ認める。そうなると天皇制は現天皇、秋篠宮の二人で終わる。自立した市民による民主国家として、日本国は十分成熟した。「国民統合」のための「人身御供」はもう無用だろう。(明賀 雄二)